

## 平成28年度第2回射水市中小企業振興等協議会議事録

- 1 開催日時 平成29年2月23日（木）午後2時30分～午後4時00分
- 2 開催場所 射水市役所大島分庁舎3階大会議室
- 3 出席者 木村委員、佐藤委員、原委員、宮崎委員、森委員、八嶋委員、若林委員
- 4 協議事項

- (1) 射水市雇用対策事業について
- (2) とやま呉西圏域都市圏ビジョンについて
- (3) 平成29年度商工労政係関係予算について
- (4) 射水市産業振興研究会事業について

### 5 意見口述（概要）

#### 4 (2) とやま呉西圏域都市圏ビジョンについて

【委員】事業を実施するにあたり KPI をしっかり設定して、人口減少に向けた対策を行う必要があると思うが、その設定は今後どうする予定か。

【事務局】今回示したビジョンには盛り込んでいないが、基本目標や KPI については、現在調査中である。来週以降、それらを協議する場があるので、そこで議論し、盛り込んだものを示したい。

【委員】個々の事業を実施しても、それらが人口対策に効果があるのか疑問である。もっと、人口を増やすダイレクトな施策を盛り込むべき。例えば、3人子供を持った時の生活保障の創設はどうか。

【事務局】人口対策は、各々の市で行うことを基本としている。その上で、連携して効果のある施策については連携をしていく。例えば、移住サポートセンターを東京に設置することや地域おこし協力隊を圏域での定住も図っていく。各市の施策と連携の施策はすみわけできるようにしたい。また、KPI の中で、大きなものについては根拠とともにお示ししたい。

【委員】人口減少や高齢化対策をどんどん行ってほしい。若い人が市内に来て子供を増やす、話は単純明快だ。そのための施策を市に行ってほしい。

【委員】個々の事業はものすごく大変だ。例えば、異業種交流促進事業をとっても、産学連携は難しいし、企業間連携はさらに難しい。企業のレベルも違う中で、このやり方でやっていけるのか。コーディネーターを1人つけて本格的に結び付けたほうがいいと思う。たくさん事業を行うよりは、いくつか絞って事業を行ったほうがいいと思う。

【事務局】 どの事業も関係機関の協力が不可欠。今後も協力をお願いしたい。

【委員】 事業を行うにあたっては、連携はもちろんだが、それを担保することが大事だ。人事異動で人が変わった結果、事業が行えないということもありうる。協定を結ぶなどの検討もして欲しい。

高岡市でも就業マッチング支援事業や UIJ ターン支援を行っているが、本来であればハローワークではなく、県が中心となって行う事業。県西部で行うにしてもハローワーク砺波や氷見もあるなかで、高岡だけが関わって事業を行っているのか。いずれにしても、担保をとるためには、先に目標を作られては困る。内容によっては協力できないこともある。協議の中に入れていただくなど、ご配慮をお願いしたい。

人口減少対策や女性・高齢者活躍について、ハローワーク高岡でも来年度から生涯現役支援窓口を設置して対応する。女性が働きやすい短時間正社員の導入や、時間を有効活用して高齢者も働いてもらうような施策を戦略的に考える必要がある。UIJ ターンについても、旦那さんだけでなく奥さんの仕事がないといったことでは、生活ができるのか、といったことを考え、実行していく必要がある。

【委員】 呉西圏域で連携されることは、県としてもありがたい。歴史的に見れば、幕末時に加賀藩の米蔵として財政を支えていたのは、呉西圏域だったということもある。そういった歴史的な観点からも6市でPRしていけば良いのではないかな。

#### 4（3）平成29年度商工労政係関係予算について

【委員】（創業支援事業補助金について）創業支援は、金融機関でも支援に力を入れているところである。実際にあてはまりそうな案件があるが、その際はどうすればいいか。

【事務局】 個別の案件については是非また聞かせてほしい。

【事務局】 商店街地域への出展であれば、「商店街等新規出店支援事業補助金」もあるので、こちらも活用して欲しい。

【委員】 商工会女性部としても特定創業支援事業を使った補助金の話は聞いていた。ぜひ推進していただければと思う。

#### 4（4）射水市産業振興研究会事業について

【委員】 第2回に参加した。第3回も同じ内容だったという認識でいいか。

【事務局】 若干違っていた。

【委員】 第2回では、TPPの関係で早く条例を作ったほうがいいのかの話だった。その後、アメリカの大統領が変わり、アメリカはTPPの不参加に方向転換したが、その影響はあるの

か。

**【事務局】** 条例は作るかどうかはまだわからないし、条例を早く作ることも目的としていない。有効な施策を検討し本当に必要なものは何かということを市民の皆さんが考えていくことが大事だと思っている。第2回と第3回の内容が違うのは、その点に触れているからである。

**【委員】** 結局、作らないこともありうるのか。

**【事務局】** 作るのを決めるのは市である。現在は勉強会を実施したいとの要望があり、この事業に補助している。条例制定の機運が高まり、施策内容が固まり次第、検討するつもりだ。

**【委員】** 施策も大事だが、条例があることで、小規模事業者への配慮につながり、それが創業、UIJ ターンにつながることもある。県としても協力できることはするので、できれば制定して欲しい。